

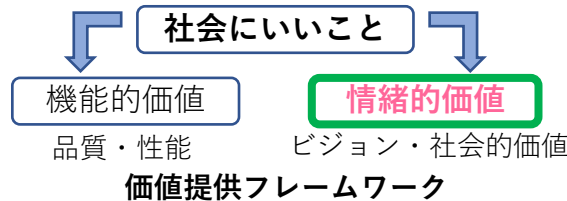
学生が“社会にいいこと”をするラボ

ラボの課題

目的：社会課題の解決に向けて、学生のアイデアでSDGsの実現や社会貢献を果たす

「社会にいいこと」で実現する価値

価値提供フレームワークから、社会課題の解決に向けて、社会に提供すべき価値を「機能的価値」と「情緒的価値」の両面で検討し、その成果を各イベントで実現。



活動のあらまし

尾道の産業

向島ドックからの依頼で、尾道観光の新たな価値の発掘として、工場見学にニーズがあるかを調査。アンケート行い地域住民や観光客のニーズを把握する。

倉敷アリオイベント

SDGsをテーマとしたイベントを倉敷アリオより依頼され、環境と防災を学ぶコンテンツを提供。防災ビンゴや環境カルタなどの学べるゲームで来場者に価値を提供。

環境フェア

備前焼の伝統産業活性化と陶器リサイクルをテーマとした出店とともに、イベント価値をアンケート調査によって測定。経済波及効果や消費CO2を算出した。

CM・TikTokのコンテンツ制作

理科大の抱えている問題である、文系学部の知名度が低いという問題を解決するため、文系学部の魅力を高めるコンテンツの制作を目指した。

1年間の活動の総括・成果について

■ 尾道の産業

分析の結果と自分たちの考える新たな観光コンテンツなどを社長に直接発表した。成果：尾道観光客の嗜好・船の工場見学への関心の把握を目的に意識調査を行い、156件の回答を頂いた。その回答結果を分析の上、学生が考案したアイデアを向島ドックの方に提案した。

■ 倉敷アリオイベント

学生が行うことで親近感を持ってもらいながら親子連れの方に環境や防災についての知識を深めてもらった。106人のお客様に来て頂き、家族で防災や環境問題について学んでもらう経験を提供。学びの経験としてだけでなく、家庭に持ち帰って活用してもらえるコンテンツを実現。

■ 環境フェア

出店では、環境カルタと再生備前焼「RI-CO」の販売を実施。また、主催者である倉敷市の依頼によりアンケート調査を実施し、経済波及効果とCO2排出量を試算。環境フェア来場者の消費による経済波及効果は1480万3100円であり、昨年2023年の波及効果が866万4700円であったため613万8400円の増加となったことが明らかになった。また自動車での来場者のCO2排出量は19.8tとなり、排出量は増加していることが分かった。

■ CM・TikTokのコンテンツ制作

高校生をターゲットにした大学PRをするためのコンテンツを制作。大学生が制作することで、高校生からの親近感や共感を期待され、大学からの依頼で制作を開始。岡山理科大学の文系学部(教育・経営学部)の認知度向上を目的に実施した。CM班とTikTok班の2チームに分かれ、それぞれがコンテンツの企画・撮影・編集を行った。CM作成では岡山理科大学の特徴をPRし、120秒と15秒の映像を作成。CM結果・絵コンテなどを使用しプロのCMクリエイターと広告代理店にプレゼンをおこなった。

担当教員：山口隆久、高橋良平

所属学生数 20名

ポスター制作：甲斐大和、岡崎陽成、菊池翔太、安本祐大